

# 大学におけるみんなで創る理想の学びとは

特集

P2~P3

## 2016年度教育支援センター 「教職員・学生協同公開シン ポジウム」開催

■学生FDワーキンググループ

■教員FDワーキンググループ

■授業についてのシンポジウム  
～みんなで創る理想の学び～

■まとめ

現在、大学教育の質的転換が求められ「学生の主体的な学び」が強調されるようになったこともあり、学生の視点から授業改善に取り組むFD活動が急速に広がっています。

社会のニーズが多様化する中、専門的な知識を深く身につけるだけでなく、社会の変化に対応できる柔軟な能力が必要になっています。そうした能力を身につけられる授業とは何かを考える機会とするため、2016年12月6日、教育支援センター主催の教職員・学生協同公開シンポジウム「授業についてのシンポジウム～みんなで創る理想の学び～」が開催されました。

今号では、このシンポジウムが学生と教職員の双方が望む理想の学びをあらためて認識し、今後の東海大学の授業の方向性や解決策を考える良い機会となったことをご報告いたします。



FD・SD研修会を収録したDVDを  
貸し出しています(学内のみ)  
問い合わせ先:教育支援センター教育支援課  
shien@tsc.u-tokai.ac.jp

# 教育支援センター「“授業についてのシンポジウム”開催に向けての学生と教員によるFDプロジェクト」報告

2016年度教職員・学生協同公開シンポジウム(2016年12月6日開催)より

教育支援センターは、2016年12月6日に教職員と学生がともに話し合う、「授業についてのシンポジウム～みんなで創る理想の学び～」を開催しました。当日は湘南校舎の会場から、テレビ会議システムで、本学の7キャンパスと短期大学部、福岡短期大学を結び、164名の教職員および学生が参加しました。

シンポジウム開催にあたっては、教員と学生が感じている授業への意識を調査するため、2016年度の秋学期ガイダンス時に教員と学生に対し、「授業のあり方に関するアンケート調査」を実施しました。そして、教員FDワーキンググループおよび学生FDワーキンググループを結成しました。各ワーキンググループは、アンケート結果をふまえ、教員と学生が感じている授業についての意識を把握したうえで「いい授業」について考え、シンポジウム内で発表を行いました。発表後は、教員と学生、フロアとの間でディスカッションもありました。

以下に、各ワーキンググループの活動および公開シンポジウムの内容について紹介します。

## ■学生FDワーキンググループ

はじめに、学生FDワーキンググループは、シンポジウムの総合テーマである「理想の学び」つまりは「いい授業」について話し合いました。アンケート結果からは、教員・学生とも「興味・関心を持たせるまたは持つ授業」が「いい授業」であると推察し、自身や身近な友人の体験をふまえ、「学ぶ」モチベーションが高い人は、幅広い教養を学ぶことでさらに興味・関心が広がり、授業満足度も高い傾向であるという認識を共有しました。このことから、学生の「学ぶ」モチベーションを高めることが、興味・関心をもつ授業につながると考えました。

次に、「理想の学び」を創るために必要なことを考察



学生ワーキンググループブレインストーミングの効果

しました。アンケート結果から、「理想の学び」について共通する項目はあるものの、教員と学生の間にはギャップが存在することがわかり、「理想の学び」を創るためには、学生の「学ぶ」モチベーションを上げ、教員・学生の間には存在するギャップを埋めていくことが必要であると考えました。そこでシンポジウムでは、学生・教員・大学側にそれぞれができるアクションの提案を行うこととしました。学生が実践できることとしては、「授業後教員に話しかけ、学生からコミュニケーションを働きかける」「大学からのお知らせ・情報を頻繁にチェックする」という意見が出され、学生がもっと主体性を持って授業に関わることを提案しました。教員への要望としては、「出欠を取ってほしい」「来ていること、一人ひとりの顔を認識してほしい」「説明のバリエーションを増やすなど、話すテクニックをもっと磨いてほしい」といった「コミュニケーション」に関する提案、「良かったレポートを読み上げてほしい」といった「双方向の授業」に関する提案、そして、「パワーポイント、OHCを使って読みやすいテキストを映し出してほしい」「説明する時間と板書の時間を分けてほしい」といった「板書や視聴覚教材」に関する提案を行いました。そして、大学運営側へは、「シラバスの公開時期に余裕をもってほしい」「学生向けポータルサイトを改善し、スマートフォンからアクセスしやすいようにしてほしい」「受けたい授業、受けてほしい授業が履修できるよう、時間割の配置を考えてほしい」といったように、学生がもっと主体性を発揮して授業を受けられるような環境を整備してほしいとの提案を行いました。

シンポジウムでは代表メンバーからフロアに対しこれらの提案を行うとともに、「今回のワーキンググループの活動を通し、多くの学生が授業に対してさまざまな要望を持っていることがわかりました。大学全体だけではなく、学部や学科単位でも議論の必要があると思う」という意見を述べました。

学生FDワーキンググループ開催記録

- ・ 11月14日 (月)
- ・ 11月18日 (金)
- ・ 11月25日 (金)
- ・ 12月5日 (月)

■教員FDワーキンググループ

教員のワーキンググループでも同様に、アンケート結果から教員・学生とも「興味・関心を持たせる・持つ授業」が「いい授業」であると考察しました。そして、互いに「興味・関心を持たせる授業」をつくるために各教員が実践していることを紹介し、議論を行いました。これを通し、教員が考えている「なぜ双方向授業を行うのか」「なぜ知の喜びを知ってほしいのか」について学生にも知ってもらいたいとの意見が出ました。

そこでシンポジウムでは、大人数の授業でも少人数単位でのグループワークを取り入れることで学生のやる気を喚起できている事例や、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで学生の知識定着度を高める取り組みを紹介し、シンポジウムのフロアに対し「双方向授業の意義」そして「学ぶ意義」について、一石を投じました。

教員FDワーキンググループ開催記録

- ・ 11月15日 (火)
- ・ 11月22日 (火)
- ・ 11月29日 (火)

■授業についてのシンポジウム

理学部の山本義郎教授よりアンケートの分析結果について、「教員は幅広い教養や学ぶ喜びを感じてほしいと考えている一方、学生は受講マナーが守られ、板書の見やすい授業を評価する傾向にある」と報告されました。

続いて学生ワーキンググループの代表者3人ずつが登壇し、「距離感の取り方が上手な先生の授業は受けやすい」「個々の学生に目を向け、正当に評価してくれる先生に魅力を感じる」といった声が聞かれました。

一方、教員は、大人数の授業でも少人数でのグループワークを取り入れることで学生のやる気を喚起できている事例や、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで学生の知識定着度を高める取り組みを紹介しました。

後半では、全員が登壇し双方が魅力を感じる授業の作り方について語り合いました。

最後の講評では、山田学長が、「学生と教員が車座で語り合う機会も設けたい」と今後の展望を語りました。

■まとめ

今回の取り組みでは、私達の身近な課題である「授業」を協同で創るうえで、学生にとって望むこと、教員にとって望むこと、また双方の本音と、学部・学科などの属性の相異を改めて認識し、今後の東海大学の方向性

や解決策を示唆することができ、大変有意義な企画となりました。

そして、よりよい学習環境の実現には互いの信頼が重要であることがあらためて明らかになりました。シンポジウムの成果をもとに、今後も授業改善に力を入れていきたいと考えています。

学習効果が上がると思う授業(教員)

ベスト1	学生に知的好奇心を持たせる授業
ベスト2	少人数授業 (20人程度以下)
ベスト3	考えながら学ぶ参加型の授業

受けたいと思う授業(学生)

ベスト1	板書やパワーポイントが見やすい授業
ベスト2	学生に知的好奇心を持たせる授業
ベスト3	単位が取りやすい授業



学生ワーキング活動の様子



シンポジウムの様子(東海大学新聞2017年1月1日号より転載)